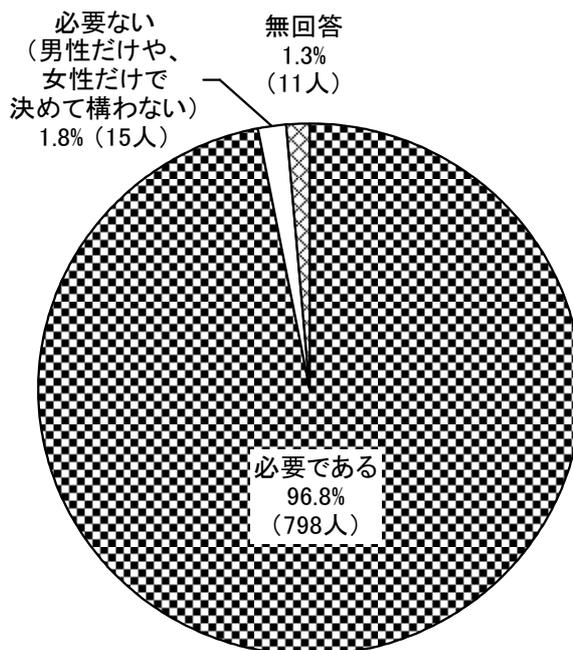


2 男女共同参画の視点からの災害対応について

(1) 防災計画策定の際のメンバー構成

問5 あなたの地域で、防災に関する計画（防災や被害を小さくするための計画、避難する時の計画など）を立てたり、決めごとをする場合、男性も女性も同じようにメンバーとして参加する必要があると思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=824)

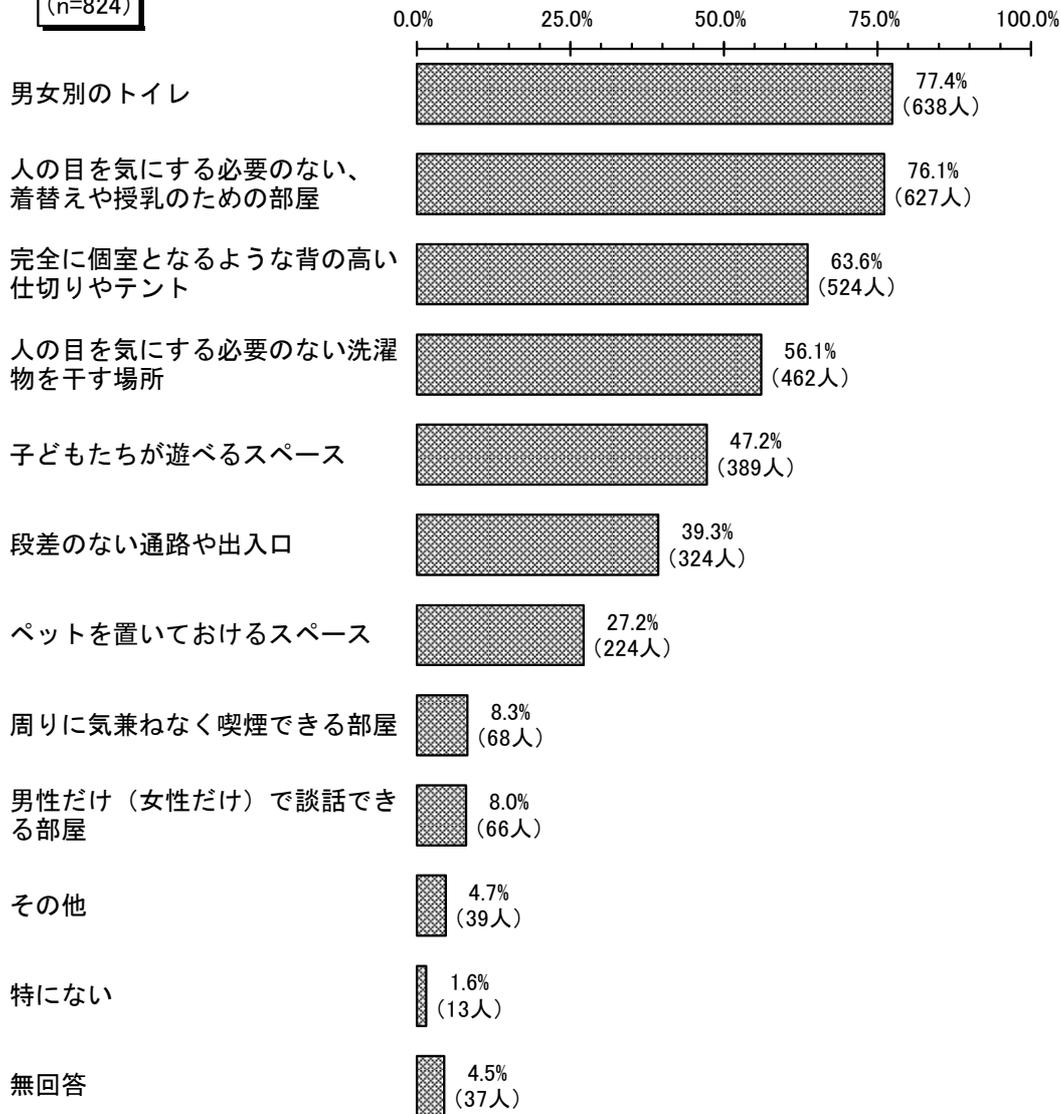


防災計画を立てたり、決めごとをする場合のメンバーは、男性も女性も「必要である」(96.8%)と考える人が多くなっている。「必要ない(男性だけや、女性だけで決めてかまわない)」(1.8%)と考える人はごくわずかである。

(2) 避難所で配慮が必要な設備

問6 避難所で配慮して欲しい設備はどのようなものですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

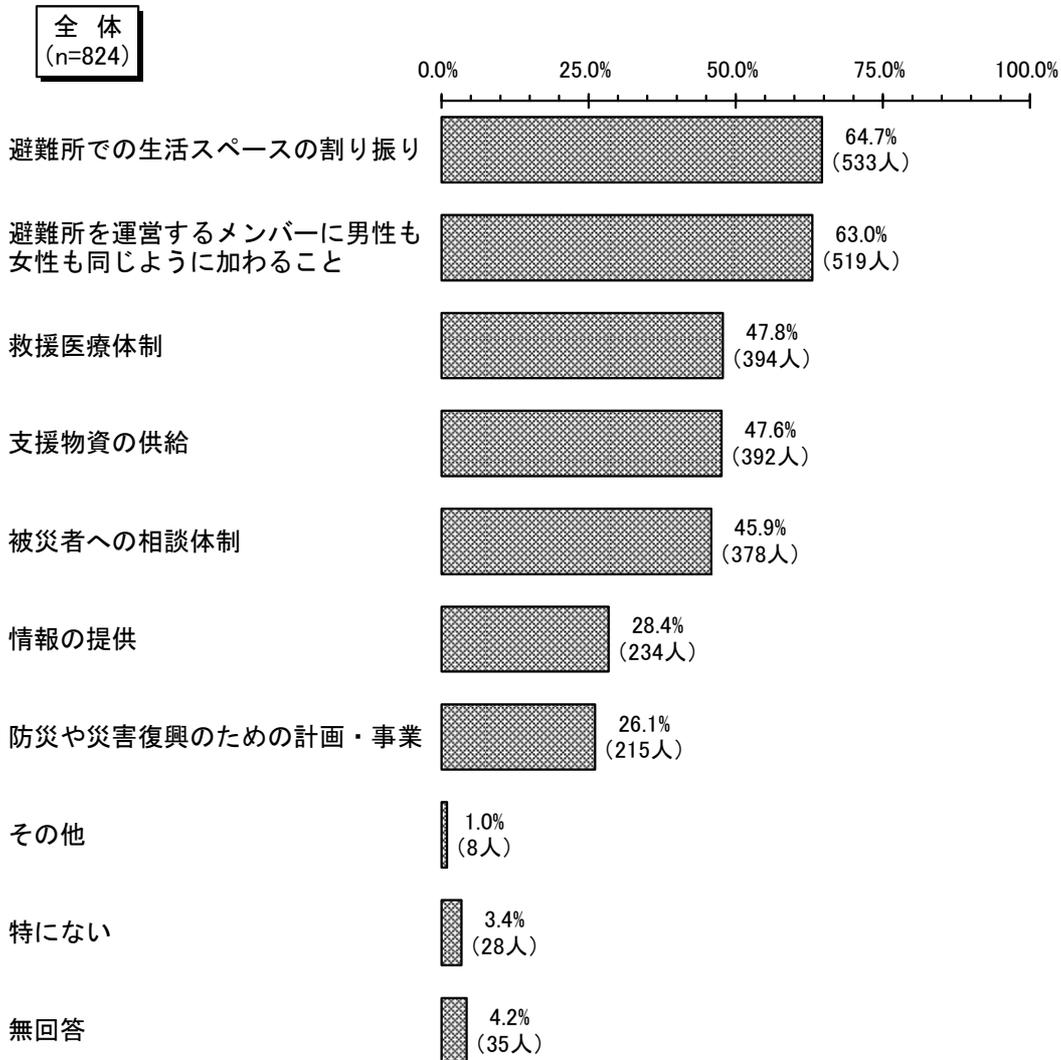
全体
(n=824)



避難所で配慮して欲しい設備は、「男女別のトイレ」（77.4%）が最も多く、8割弱となっている。次いで、ほとんど差がなく「人の目を気にする必要のない、着替えや授乳のための部屋」（76.1%）となっている。以下、「完全に個室となるような背の高い仕切りやテント」（63.6%）、「人の目を気にする必要のない洗濯物を干す場所」（56.1%）、「子どもたちが遊べるスペース」（47.2%）、「段差のない通路や出入口」（39.3%）、「ペットを置いておけるスペース」（27.2%）が続いている。

(3) 「性別の違い」に配慮が必要な対応

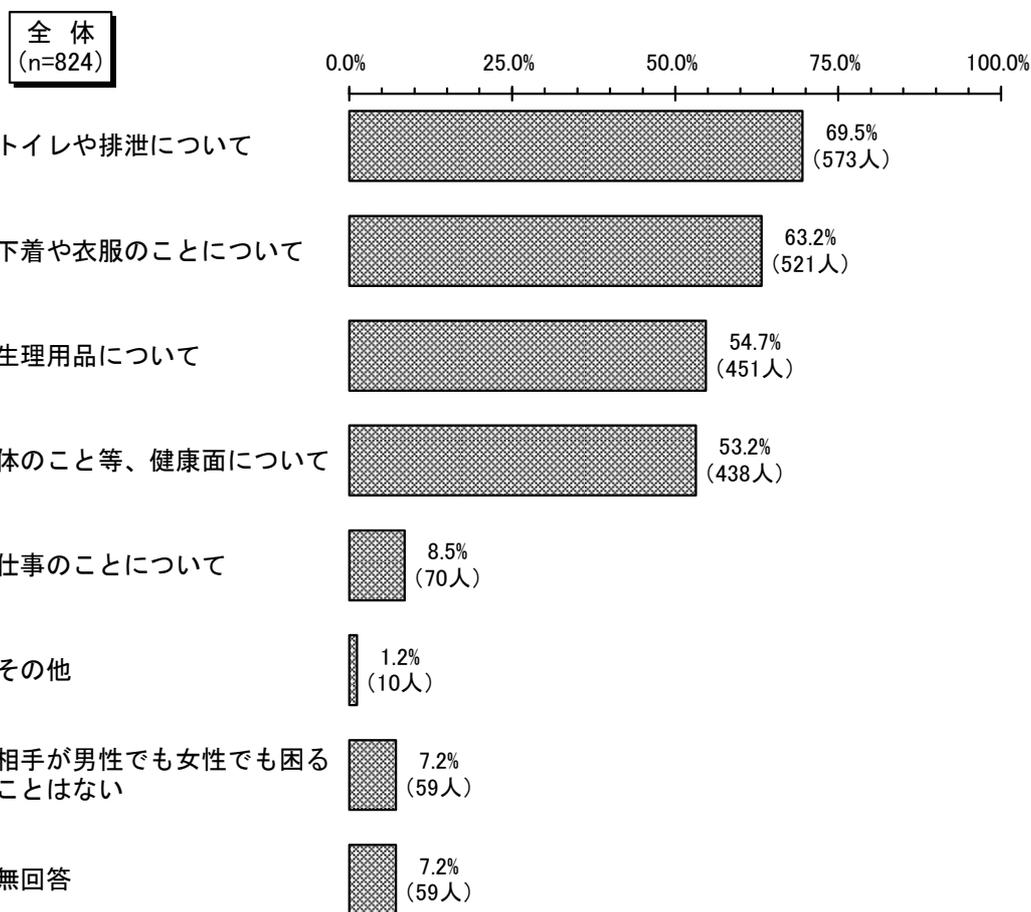
問7 次のうち災害時に「性別の違い」に気を配った対応が必要と思うものはどれですか。
あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。



「性別の違い」に気を配った対応が必要なことは、「避難所での生活スペースの割り振り」(64.7%)が最も多く、ほとんど差がなく「避難所を運営するメンバーに男性も女性も同じように加わること」(63.0%)が続いている。以下、「救援医療体制」(47.8%)、「支援物資の供給」(47.6%)、「被災者への相談体制」(45.9%)が4割台、「情報の提供」(28.4%)、「防災や災害復興のための計画・事業」(26.1%)が2割台となっている。

(4) 同性に相談したい避難所生活での要望等

問8 避難所等の生活に必要なものや改善して欲しいことについて要望したり相談する時、相手が自分と同性でなければ言いにくいと思われる（思った）ことは何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

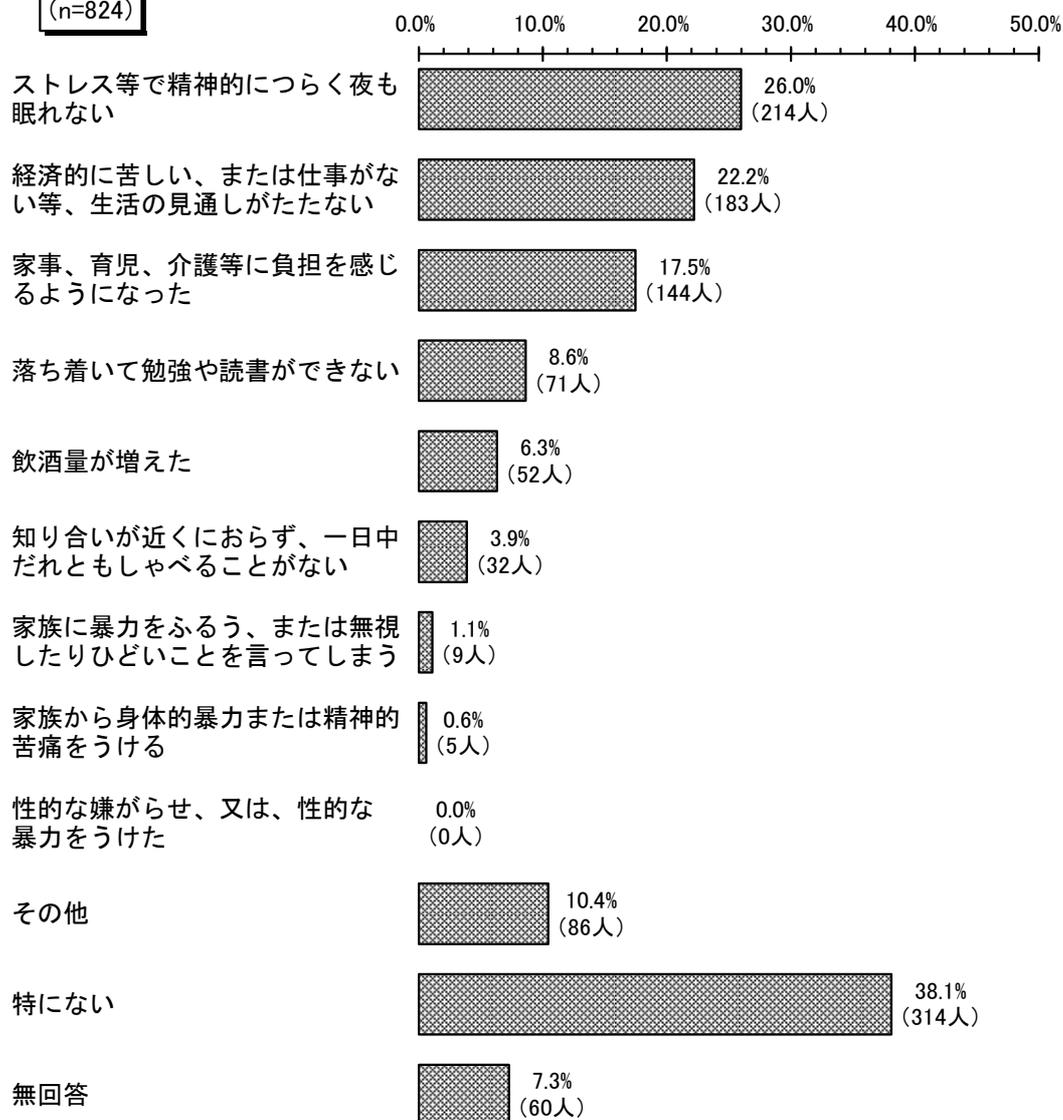


同性に相談したい避難所等の生活での要望や相談ごとは、「トイレや排泄について」(69.5%)が最も多く、7割弱となっている。以下、「下着や衣服のことについて」(63.2%)が6割台、「生理用品について」(54.7%)と「体のこと等、健康面について」(53.2%)が5割台で続いている。

(5) 震災や豪雨災害後、自分自身や家族に生じた問題

問9 東日本大震災や豪雨災害の後、あなた自身または家族に、困ったことや問題がおきていますか（おきましたか）。
あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

全体
(n=824)



東日本大震災や豪雨災害後、自分自身や家族におきている問題として、「ストレス等で精神的につらく夜も眠れない」（26.0%）が最も多くなっている。以下、「経済的に苦しい、または仕事がない等、生活の見通しがたたない」（22.2%）、「家事、育児、介護等に負担を感じるようになった」（17.5%）と続いている。

一方、問題は「特にない」（38.1%）が4割弱となっている。